

静岡県清水町

橋梁長寿命化修繕計画の改定



柿田橋（1974年竣工）

令和5年3月

目 次

	PAGE
1. 長寿命化修繕計画の改定について	
1-1. これまでの取り組み	1
1-2. 改定の背景	1
2. 長寿命化修繕計画の改定目的	
2-1. 現 状	2
2-2. 改定目的	3
3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	
3-1. 対象橋梁全体位置図	4
3-2. 対象橋梁全体一覧表	5
4. 健全度の把握及び日常的な維持に関する基本的な方針	
4-1. 維持管理の基本的な方針	8
4-2. 橋梁点検と橋梁修繕の状況	9
4-3. 橋梁の健全性	10
5. 橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに掛かる費用の縮減に関する基本的な方針	
5-1. 費用の縮減に関する基本的な方針	11
5-2. 新技術等の活用方針	12
5-3. 橋梁の集約化・撤去	13
6. 橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期	
6-1. 点検時期	7
6-2. 橋梁の修繕内容及び時期	7
7. 使用する主な図書及び基準	8
8. 連絡体制（緊急時含む）	9

1. 長寿命化修繕計画の改定について

1-1. これまでの取り組み

清水町（以降“町”と呼ぶ）では、橋梁の機能維持、道路交通の安全性の確保、維持管理費用の平準化による将来的な財政負担の低減を図るために、平成25年3月に「静岡県清水町橋梁長寿命化計画」（以下、前回計画と呼ぶ）を作成し、計画的な定期点検を実施した上で、その結果を踏まえて損傷部の修繕を進める等、予防保全型による橋梁の健全性を維持し、効率的で効果的な管理に取り組みました。

維持管理の基本調査となる定期点検は、平成26（2014）年から開始し、平成30（2018）年度までの5年間で法令に基づく1巡目の点検を完了し、令和元（2019）年から2巡目の点検を行っております。

また、長寿命化対策としては、前回計画に基づき長寿命化工事を実施しており、今後も2巡目の点検結果を基に計画的に実施していく予定です。



柿田橋（塗装塗替え）



八幡橋（橋台断面修復）

1-2. 改定の背景

前回計画の策定から9年が経過する中、依然として年々増大する社会資本ストックは、建設後の年数経過、高齢化が進んでおり、その中でも橋梁は予防保全的な管理及び修繕の必要性が高まるとともに、更新に係るコストの大幅な増加が見込まれるため、その縮減が課題となっています。

町においても、現在、**77橋の橋梁を管理**しており、これらの多くは1980年以前に建設され、30年以上を経過しているため、通行の安全性の確保と近い将来膨大な架け替え費用の発生が予想されます。

また、このままの状況で放置した場合には、さらに橋梁の高齢化が進み、橋梁の安全性が確保できず町民の生活に多大な影響を及ぼします。

橋梁の寿命は、一般的に50年～80年と言われている中で、当町においても次頁にて示すとおり20年後には、ほとんどの橋梁が寿命を迎えます。

これまでの寿命を終えてからの橋梁の架け替えや損傷が進行してからの補修を行う維持管理方法では、多大な経費が一斉にかかることが明らかなです。

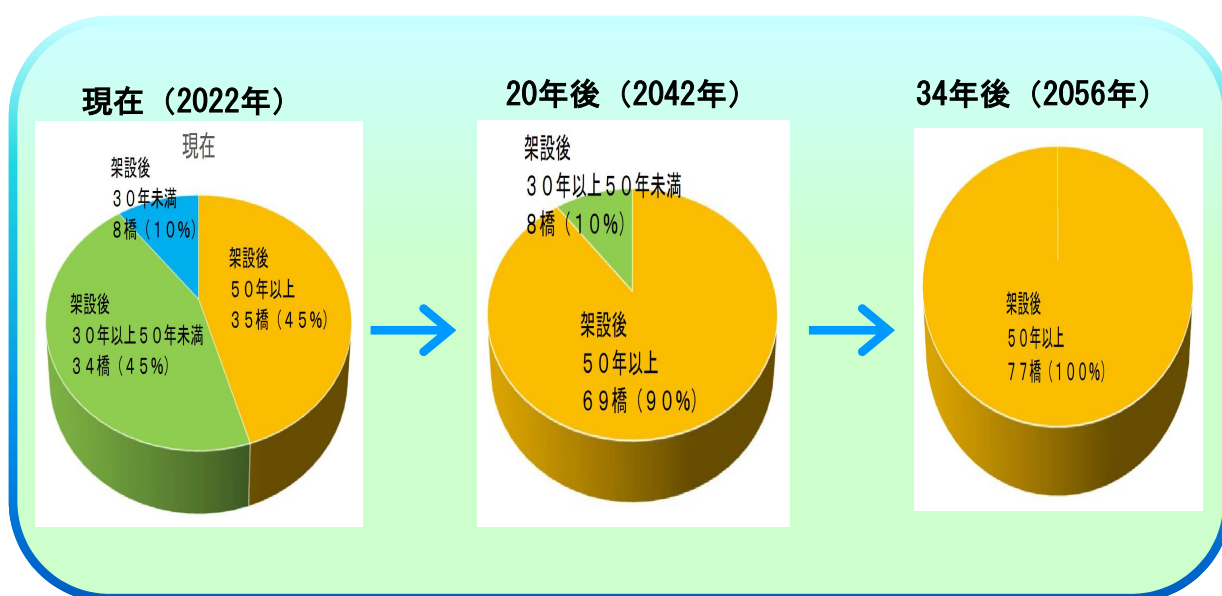
2. 長寿命化修繕計画の改定目的

2-1. 現状

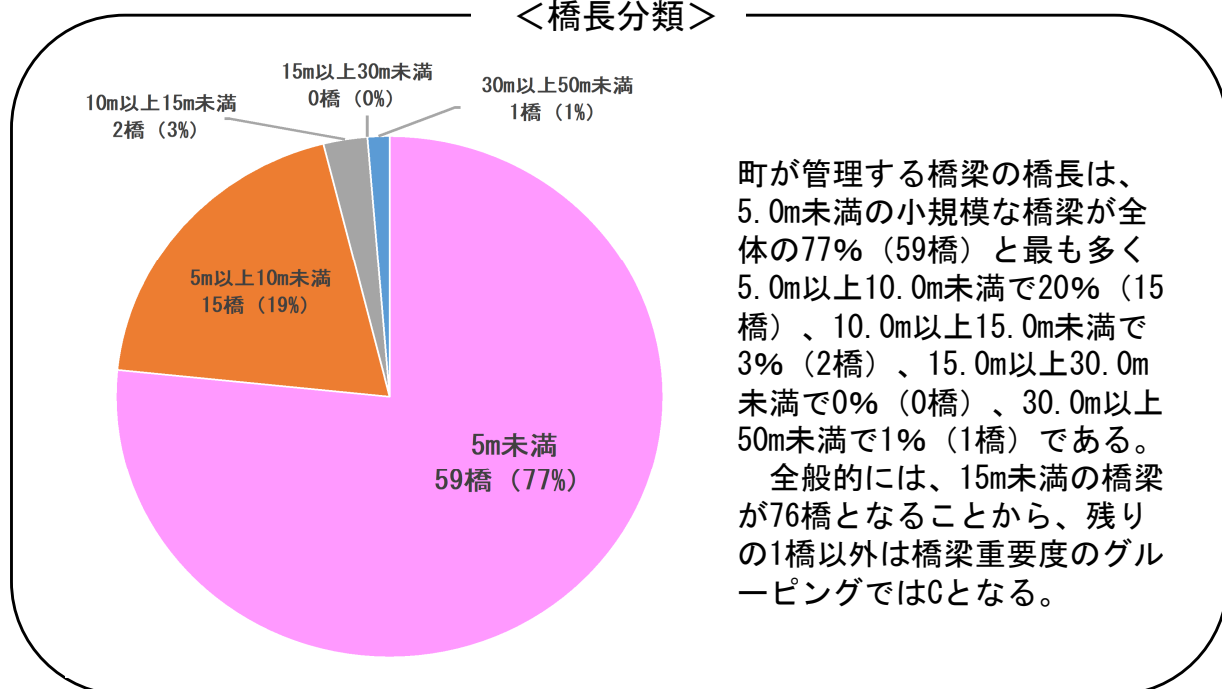
町が管理する橋梁77橋のうち、建設後50年以上経過した橋梁の数は、2022年時点では、全体の45%の34橋ですが、20年後（2041年）には89%の68橋、34年後（2056年）には76橋全橋と急増します。

以上より、今後、高齢化する橋梁が一斉に増加することに伴って、これらの橋梁に対する修繕や架替え等の維持管理に要する費用の増大が見込まれます。

このため、計画的且つ予防的な維持管理により予算の平準化と維持管理費の縮減を図り、持続可能な維持管理を実現する必要があります。



<橋長分類>



2. 長寿命化修繕計画の改定目的

2-2. 改定目的

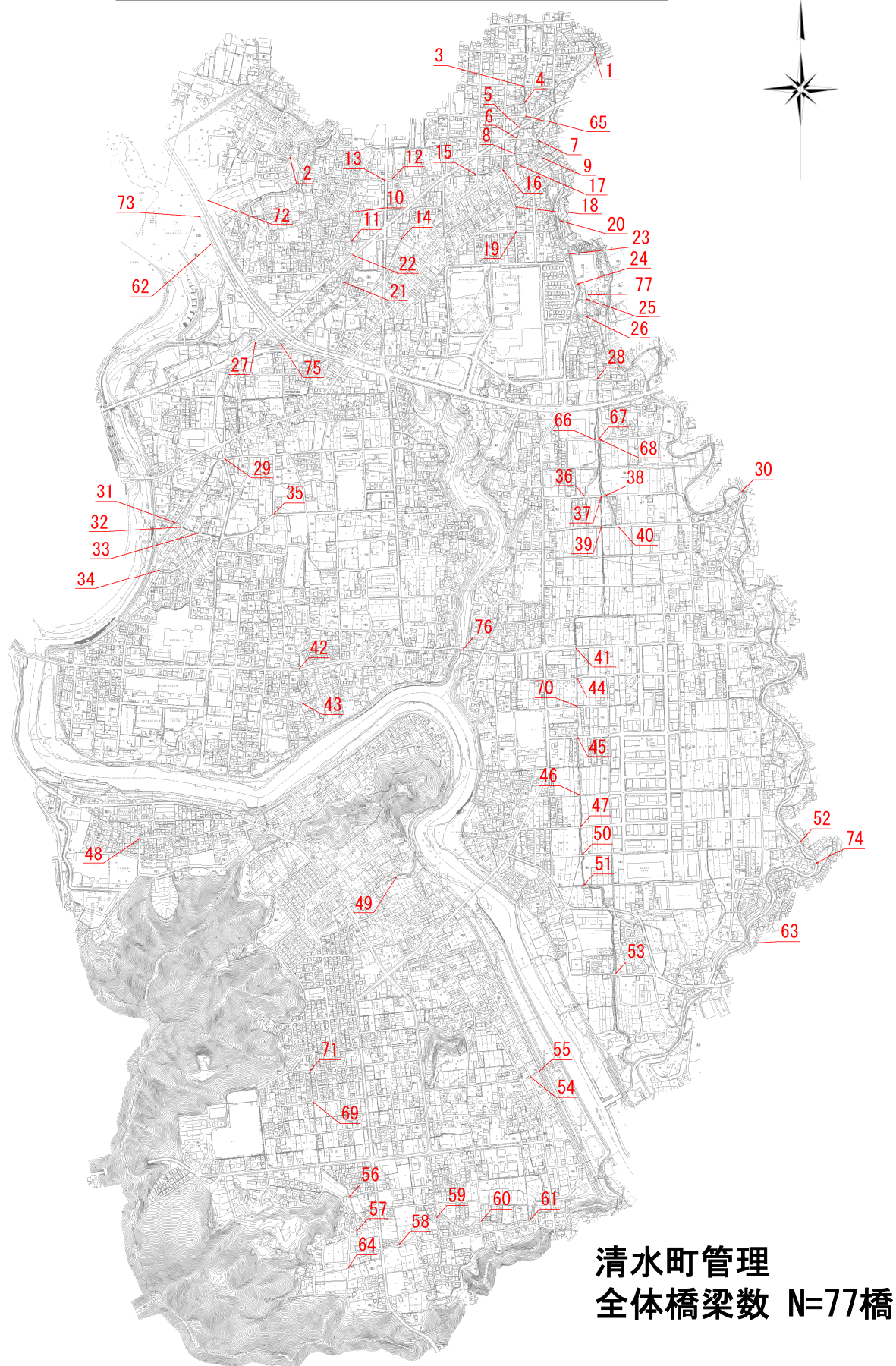
今回の改定は、厳しい財政状況の中、橋梁を適切に維持管理するため、近年の生産性向上を目標とした効率且つ効果的な技術革新（新技術の活用）により、更なる維持管理・更新（架け替え）に係るトータルコストの縮減ならびに予算の平準化を図ることを基本とした。

また、2巡の橋梁点検結果により把握した橋梁の損傷状況や進行性に加えて、時代の変化に沿った利用状況（方法や頻度）を踏まえた集約化・撤去及び機能低下を選択肢の一つとすることで長期的な維持管理費を抑えることを目的として、改めて橋梁長寿命化計画を見直し策定するものとします。

3. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

3-1. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁全体位置図

橋 梁 箇 所 図



3. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

3-2. 対象橋梁一覧表 (1/3)

橋梁ID	橋梁名(フリガナ)		路線名	架設年次	橋長(m)	幅員(m)
1	無名橋1	ムメイキョウ1	町道101号線	1962～1971	2.0	7.2
2	久保橋	クボハシ	21号線	1981	6.5	5.5
3	無名橋2	ムメイキョウ2	104号線	1972～1981	2.4	5.3
4	無名橋3	ムメイキョウ3	106号線	1972～1981	2.6	5.4
5	無名橋4	ムメイキョウ4	1号線	～1961	3.6	13.3
6	無名橋5	ムメイキョウ5	110号線	～1961	2.5	5.0
7	無名橋6	ムメイキョウ6	109号線	1972～1981	6.4	6.1
8	無名橋7	ムメイキョウ7	111号線	～1961	2.7	5.4
9	無名橋8	ムメイキョウ8	114号線	～1961	2.9	1.4
10	無名橋9	ムメイキョウ9	21号線	～1961	3.8	5.9
11	無名橋10	ムメイキョウ10	137号線	1962～1971	2.6	4.1
12	無名橋11	ムメイキョウ11	710号線	～1961	4.4	3.6
13	無名橋12	ムメイキョウ12	24号線	1972～1981	6.9	12.1
14	無名橋13	ムメイキョウ13	136号線	～1961	2.0	6.6
15	無名橋14	ムメイキョウ14	115号線	1962～1971	3.2	9.4
16	無名橋15	ムメイキョウ15	22号線	1962～1971	2.9	10.8
17	無名橋16	ムメイキョウ16	710号線	～1961	2.2	2.4
18	無名橋17	ムメイキョウ17	117号線	1962～1971	2.4	8.4
19	無名橋18	ムメイキョウ18	119号線	1962～1971	2.1	6.2
20	無名橋19	ムメイキョウ19	206号線	2006	2.0	1.3
21	頼朝橋	ヨリモハシ	178号線	～1961	4.3	4.8
22	無名橋20	ムメイキョウ20	1号線	～1961	4.6	12.7
23	無名橋21	ムメイキョウ21	206号線	1972～1981	4.2	1.9
24	無名橋22	ムメイキョウ22	207号線	～1961	3.3	3.6
25	無名橋23	ムメイキョウ23	206号線	～1961	4.4	0.5
26	無名橋24	ムメイキョウ24	23号線	1962～1971	4.3	4.4

3. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

3-2. 対象橋梁一覧表 (2/3)

橋梁ID	橋梁名(フリガナ)		路線名	架設年次	橋長(m)	幅員(m)
27	八幡橋	ヤハタハシ	1号線	1950	5.7	12.1
28	無名橋25	ムメイキョウ25	204号線	～1961	3.9	5.8
29	無名橋26	ムメイキョウ26	2号線	～1961	2.0	10.7
30	新橋	シンバシ	4号線	1965	5.0	5.7
31	無名橋27	ムメイキョウ27	259号線	1972～1981	3.5	4.7
32	無名橋28	ムメイキョウ28	275号線	1972～1981	2.0	9.0
33	無名橋29	ムメイキョウ29	274号線	1972～1981	2.0	9.3
34	無名橋30	ムメイキョウ30	25号線	～1961	8.0	7.6
35	無名橋31	ムメイキョウ31	266号線	1972～1981	2.6	5.2
36	無名橋32	ムメイキョウ32	320号線	～1961	3.1	6.6
37	無名橋33	ムメイキョウ33	320号線	～1961	3.1	6.1
38	無名橋34	ムメイキョウ34	320号線	～1961	2.2	7.0
39	無名橋35	ムメイキョウ35	321号線	～1961	2.2	7.5
40	無名橋36	ムメイキョウ36	321号線	～1961	2.8	9.0
41	無名橋37	ムメイキョウ37	3号線	1972～1981	2.2	11.7
42	無名橋38	ムメイキョウ38	3号線	1972～1981	2.4	18.0
43	無名橋39	ムメイキョウ39	396号線	1962～1971	2.3	4.8
44	無名橋40	ムメイキョウ40	347号線	1972～1981	2.2	6.1
45	無名橋41	ムメイキョウ41	37号線	2003	2.6	10.4
46	無名橋42	ムメイキョウ42	368号線	1996	3.0	4.8
47	無名橋43	ムメイキョウ43	35号線	1972～1981	5.8	6.4
48	無名橋44	ムメイキョウ44	27号線	1962～1971	2.2	5.1
49	無名橋45	ムメイキョウ45	500号線	1962～1971	3.4	5.0
50	無名橋46	ムメイキョウ46	367号線	～1961	3.4	6.5
51	無名橋47	ムメイキョウ47	365号線	～1961	5.5	3.4
52	畑中橋	ハタケナカバシ	35号線	1999	7.9	5.0

3. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

3-2. 対象橋梁一覧表 (3/3)

橋梁ID	橋梁名(フリガナ)		路線名	架設年次	橋長(m)	幅員(m)
53	大水門橋	ダイスイモンバシ	589号線	1981	6.4	5.5
54	無名橋48	ムメイキョウ48	578号線	～1961	3.6	7.0
55	無名橋49	ムメイキョウ49	584号線	1972～1981	3.4	6.0
56	地蔵橋	ジゾウバシ	634号線	1972～1981	3.8	5.5
57	杉沢橋	スキサワバシ	670号線	1972～1981	3.2	4.6
58	白銀橋	シロガネバシ	656号線	1993	4.0	4.5
59	岩下橋	イワシタバシ	628号線	1972～1981	4.7	3.2
60	無名橋50	ムメイキョウ50	32号線	1995	6.2	5.5
61	出城橋	デシロバシ	622号線	1972～1981	6.3	3.0
62	無名橋51	ムメイキョウ51	170号線	1972～1981	2.5	4.3
63	境橋	サカイバシ	600号線	1985	10.8	4.0
64	無名橋52	ムメイキョウ52	649号線	1984	2.2	6.1
65	無名橋53	ムメイキョウ53	108号線	1972～1981	2.7	6.5
66	無名橋54	ムメイキョウ54	721号線	1990	2.0	6.0
67	無名橋55	ムメイキョウ55	721号線	1990	3.0	6.0
68	無名橋56	ムメイキョウ56	721号線	1990	2.0	6.0
69	仲田橋	ナカタバシ	548号線	1994	2.0	7.3
70	鳩居橋	ハトイバシ	390号線	1982～1990	4.5	6.5
71	無名橋57	ムメイキョウ57	543号線	1972～1981	2.3	10.1
72	無名橋58	ムメイキョウ58	717号線	1982～1990	6.9	4.1
73	無名橋59	ムメイキョウ59	717号線	1982～1990	6.8	6.9
74	見目橋	ミルメバシ	364号線	1994	13.5	4.0
75	無名橋60	ムメイキョウ60	730号線	1982～1990	8.2	5.7
76	柿田橋	カキタバシ	3号線	1974	43.6	9.0
77	無名橋61	ムメイキョウ60	757号線	～1961	4.0	5.3

4. 健全度の把握及び日常的な維持に関する基本的な方針

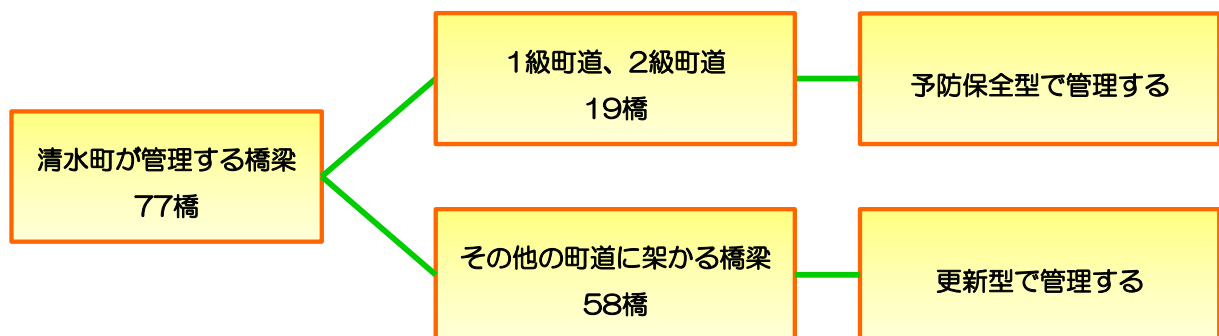
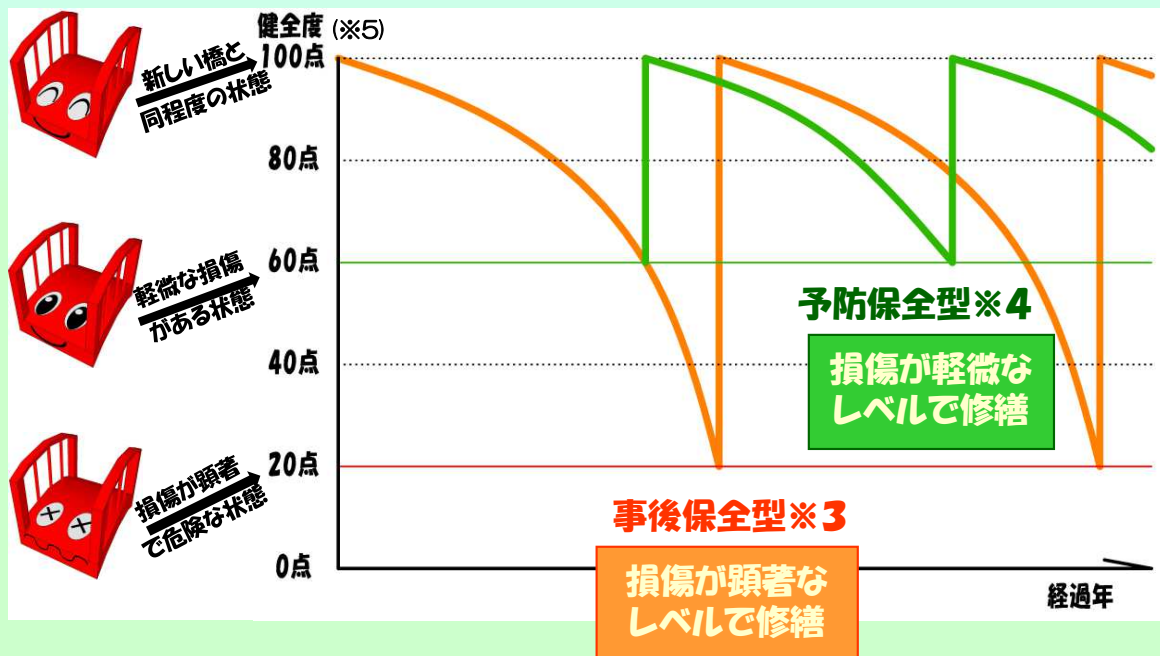
4-1. 維持管理の基本的な方針

橋梁の維持は、適切かつ効率的に維持管理・修繕していくため、橋梁点検を実施し健全度の把握を行い、顕著な損傷が確認された橋梁を対象に修繕を実施してきました。

これまでは、従来までの損傷が著しくなってから架け替えを行う『事後保全型(※3)の維持管理』を行ってきましたが、維持管理費の縮減及び平準化の観点から、損傷が軽微な段階で修繕を行う「予防保全型(※4)の維持管理」への転換を図ります。

特に本計画では、予想される大規模地震などにより町民の生活に多大な影響を及ぼす緊急輸送路や道路ネットワーク上重要となる**1級及び2級町道**に架かる橋梁を優先対象路線とします。

予防保全型と事後保全型の修繕サイクルイメージ



4. 健全度の把握及び日常的な維持に関する基本的な方針

4-2. 橋梁点検及び修繕状況

橋梁の点検について、町では専門家による定期点検や職員による通常点検、巡回パトロールにより状態を確認し、損傷等を発見した場合には早期に補修等を行います。

橋梁も人間と同じように「健康診断」を定期的に行うことで、異常の早期発見ができ、長寿命化につながるため、定期点検を5年に1回の頻度で行っていきます。

また、橋梁定期点検で確認された損傷は、維持管理の基本方針より、改定した本計画に則り計画的且つ効率的に修繕を実施します。

点検状況

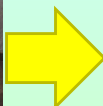


修繕例

<塗装の塗り替え>



<修繕前>

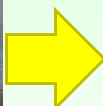


<修繕後>

<断面修復>



<修繕前>



<修繕後>

4. 健全度の把握及び日常的な維持に関する基本的な方針

4-3. 橋梁の健全性

橋梁の健全性は、今年で2巡目を完了し、その健全度判定結果を1巡目の点検結果と合わせて下表に示す。

町が管理する橋梁の健全度結果は、前項に示す予防保全型維持管理水準（損傷度60＝健全度Ⅲ）より、現在優先的な修繕の対象となる橋梁が3橋であることを確認した。

橋梁ID	道路橋名	健全度結果	
		一巡目 判定 区分	二巡目 判定 区分
1	無名橋1	I	II
2	窪橋	II	II
3	無名橋2	II	I
4	無名橋3	II	II
5	無名橋4	II	II
6	無名橋5	I	II
7	無名橋6	II	II
8	無名橋7	II	II
9	無名橋8	II	II
10	無名橋9	II	II
11	無名橋10	I	II
12	無名橋11	II	II
13	無名橋12	II	II
14	無名橋13	II	II
15	無名橋14	II	II
16	無名橋15	II	II
17	無名橋16	II	II
18	無名橋17	II	III
19	無名橋18	I	I
20	無名橋19	II	II
21	頼朝橋	II	II
22	無名橋20	II	I
23	無名橋21	II	II
24	無名橋22	II	II
25	無名橋23	II	II
26	無名橋24	II	II

橋梁ID	道路橋名	健全度結果	
		一巡目 判定 区分	二巡目 判定 区分
27	八幡橋	II	I
28	無名橋25	II	II
29	無名橋26	I	II
30	新橋	II	II
31	無名橋27	II	II
32	無名橋28	II	II
33	無名橋29	II	II
34	無名橋30	II	I
35	無名橋31	I	II
36	無名橋32	II	II
37	無名橋33	II	II
38	無名橋34	II	II
39	無名橋35	II	II
40	無名橋36	II	II
41	無名橋37	I	II
42	無名橋38	II	II
43	無名橋39	I	I
44	無名橋40	II	II
45	無名橋41	II	II
46	無名橋42	I	I
47	無名橋43	II	II
48	無名橋44	II	II
49	無名橋45	I	II
50	無名橋46	II	II
51	無名橋47	II	II
52	畑中橋	II	II

橋梁ID	道路橋名	健全度結果	
		一巡目 判定 区分	二巡目 判定 区分
53	大水門橋	II	II
54	無名橋48	II	II
55	無名橋49	II	II
56	地藏橋	II	II
57	杉沢橋	II	III
58	白金橋	II	II
59	岩下橋	II	III
60	無名橋50	II	II
61	出城橋	II	II
62	無名橋51	I	I
63	境橋	II	II
64	無名橋52	II	II
65	無名橋53	I	I
66	無名橋54	I	I
67	無名橋55	I	II
68	無名橋56	I	I
69	仲田橋	II	II
70	鳩居橋	II	II
71	無名橋57	II	II
72	無名橋58	II	II
73	無名橋59	II	II
74	見目橋	I	II
75	無名橋60	III	II
76	柿田橋	II	II
77	無名橋61	—	—

※ID75無名橋60は、二巡目の時点で補修済です。

5. 橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

5-1. 費用の縮減に関する基本的な方針

これまでに進めてきた計画的かつ予防的な維持管理を更に推進することで、橋梁の健全度を良好な状態に維持し長寿命化すると共に、修繕・架替えに係る費用を抑え、ライフサイクルコスト（LCC）の縮減ならびに予算の平準化を図ります。

【方針①】 予防保全型の維持管理とし、健全度を確保します。

管理橋梁数が76橋と多いため、維持管理の区分は、各橋梁の特性に合わせて「予防保全型①」「予防保全型②」の2つに分類しました。各管理区分における管理水準を図5.1に示します。

【方針②】 予算の平準化を図るため、優先順位を基に対策時期の集中を緩和します。

定期点検により得られた健全性の診断結果に基づき定量的に評価した「橋梁の健全度」と橋梁諸元や架橋状況などによる「橋梁の重要度」を考慮して、対策の優先順位を定量的に決定し、対策時期の調整を行います。

ここで、重要度を評価する項目は、**橋長・路線区分・バス路線・DID地区・緊急輸送路への接続・迂回路・交差物・添架物・桁下高**の9項目としました。

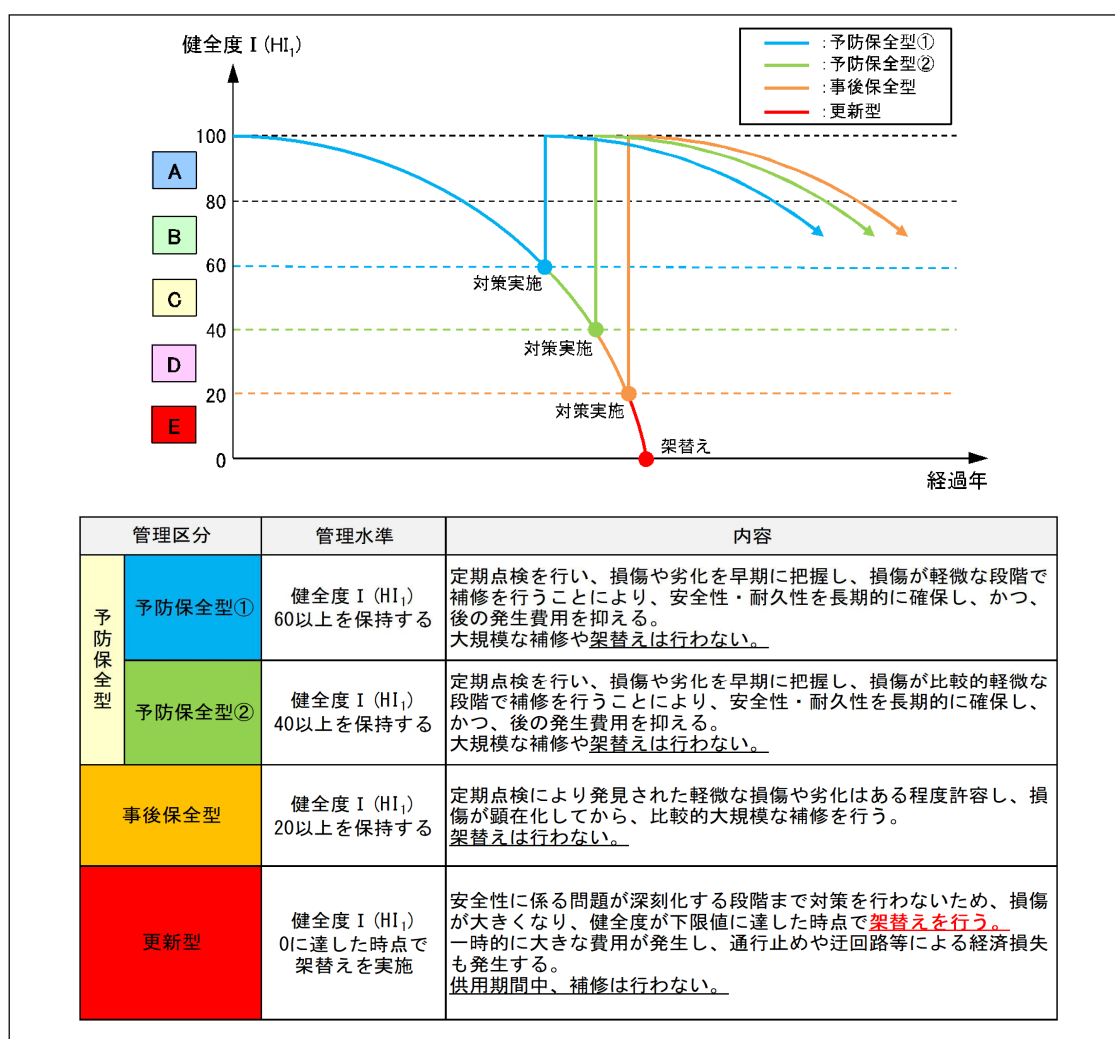


図 5.1 維持管理区分と管理水準の関係

5. 橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

5-2. 新技術等の活用方針と計画（案）

（1）基本方針

社会インフラの老朽化対策を効率的に進めていくため、近年、維持管理に係る技術開発が積極的に行われています。橋梁の維持管理においても、定期点検の効率化や高度化を図る点検支援技術や補修工事の省力化やコスト縮減を図るための補修工法など、新技術・新工法が開発されています。

町では持続可能な維持管理を実現するために、定期点検や補修工事の際に新技術等の活用について検討を行い、有効な技術を積極的に取り入れて、効率的・効果的な維持管理ならびにコスト縮減を図ります。具体的には、定期点検においては、「点検支援技術性能カタログ（案）（国土交通省）」などを参考に点検作業の効率化につながる新技術等の活用を検討します。

補修工事においては、「新技術情報提供システム（NETIS）（国土交通省）」や「新技術・新工法情報データベース（静岡県）」などを参考に各橋梁に適した有効な新技術等の活用を検討します。

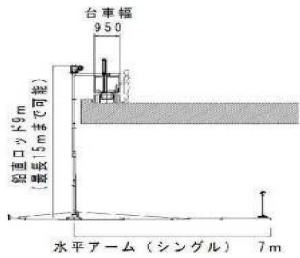
（2）新技術活用計画（案）

柿田川に架かる柿田橋は、1級町道上の橋長 $L=43.6\text{m}$ 幅員 9.0m 町内唯一の鋼橋（合成鋼桁橋）である。

この橋の点検は、当該路線の交通量が多く橋梁上においては、常時渋滞状態にあることから、橋梁点検車による点検が困難であったため、これまでの点検はロープアクセスによる点検方法を採用しました。

ここで、ロープアクセスによる点検法は、点検者の技量によるが、作業の安全性が懸念されてきたことから、**点検手法の新技術として、橋梁点検支援ロボット案**を比較検討対象として下表にて、新技術活用計画案の検討に着手している。

表5.1 点検手法の比較

	【従来技術】ロープアクセス	【新技術】橋梁点検支援ロボット (技術番号：BR010018-V0120)
点検状況	 ＜柿田橋点検状況＞	
概要	主に橋面上（高欄、地覆）からロープを設置し、点検員が桁下へ降下して、桁下の点検を行う。	高欄に鉛直ロッドを設置し、先端に高精度ビデオカメラを使用した水平アームを吊るして、桁下の点検を行う。
作業性	橋長方向への移動が自由にできないため、点検作業に時間を要し、作業効率に劣る。	作業は橋面からタブレットを用いて確認しながら行うことができ、高画質な写真の撮影が可能。また、容易に移動ができ、作業効率に優れる。
安全性	使用機材の欠陥や、点検員の技量不足により墜落事故を起こす危険性がある。機材のメンテナンスや点検員の技術教育などを徹底する必要がある、安全管理が難しい。	点検員は橋面から点検作業を行うため、墜落事故の可能性がなく、安全に点検を実施することができる。

5. 橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

5-3. 橋梁の集約化・撤去方針と計画

(1) 基本方針

町が管理する橋梁数は77橋であり、高齢化も進んでいるため、今後老朽化対策に必要となる維持管理コストの増大が見込まれます。

限られた予算の中で持続可能な維持管理を行っていくためには、町が管理する橋梁について、機能縮小、複数施設の集約化などの検討を行い、点検・修繕・更新等に係る長中期的な費用の縮減を行い、維持管理の更なる高度化、効率化を目指します。

集約化・撤去を検討する橋梁は、橋梁の重要度及び安全性、周辺環境や利用状況等を踏まえて決定します。

対象とする橋梁は、図5.2に示すフローに基づき選定し、集約化・撤去を検討していきます。

なお、橋梁の集約化・撤去を行う上では、橋梁を利用する地元住民の方々の理解と協力が必要となります。そのため、地元の合意形成を図りながら丁寧に検討を進めていきます。

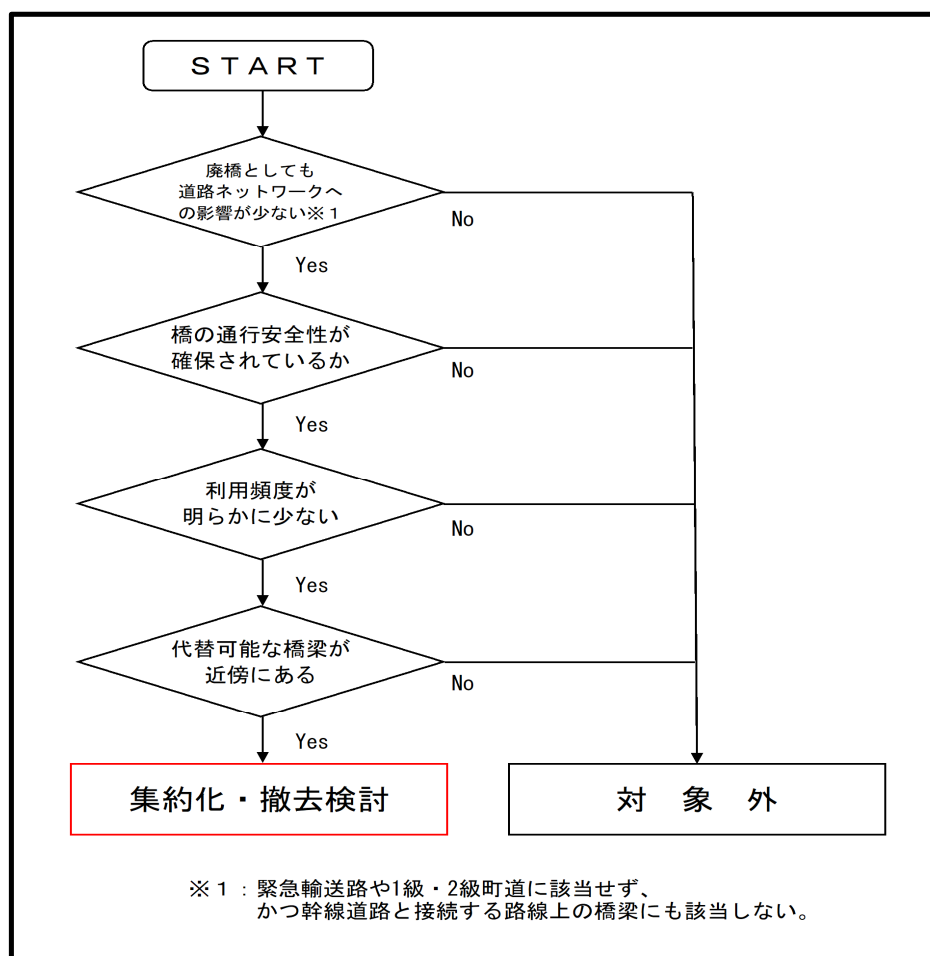


図5.2 集約化・撤去検討対象橋梁の選定フロー

5. 橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

5-3. 橋梁の集約化・撤去方針と計画

(2) 集約化・撤去に関する短期的な数値目標計画（案）

1) 集約・撤去検討の背景・目的

町が管理する橋梁数は77橋の中で、ほとんど利用されていない橋梁があることが判明し、定期点検費も嵩んでいたことから、集約・撤去の検討に着手している。

2) 集約・撤去対象橋梁の選定

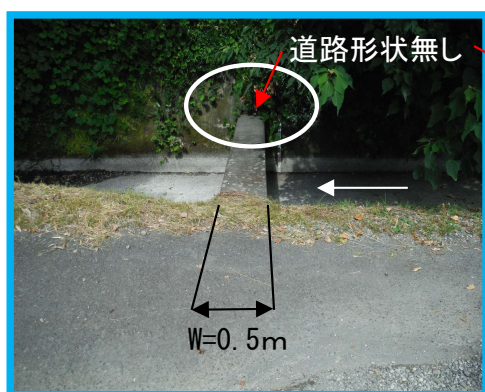
対象橋梁は、1巡目及び2巡目の定期点検を行った際、以下に示す利用時状況を確認し、把握している。

- ① いずれの点検時においても、橋梁自体や、橋梁にアクセスする道路が利用されている形跡（右岸側が壁面で道路形状無し）が無かった。
- ② 対象橋の約10m上流に、同種機能の近接橋梁が存在する。

以上より、今後の利用頻度も殆ど無いこと、通行の安全性に問題があることから判断し、集約・撤去の対象として選定した。

<集約・撤去対象橋梁概要>

橋梁名 ; 無名橋23（橋梁ID 23）
橋 種 ; RC床版橋（歩行者用）
橋梁寸法 ; 橋長L=4.0m、橋幅W=0.5m
健全度 ; II（床版下面に部分的な鉄筋露出有り）



起点より遠景



下流より全景（上流近接橋有り）

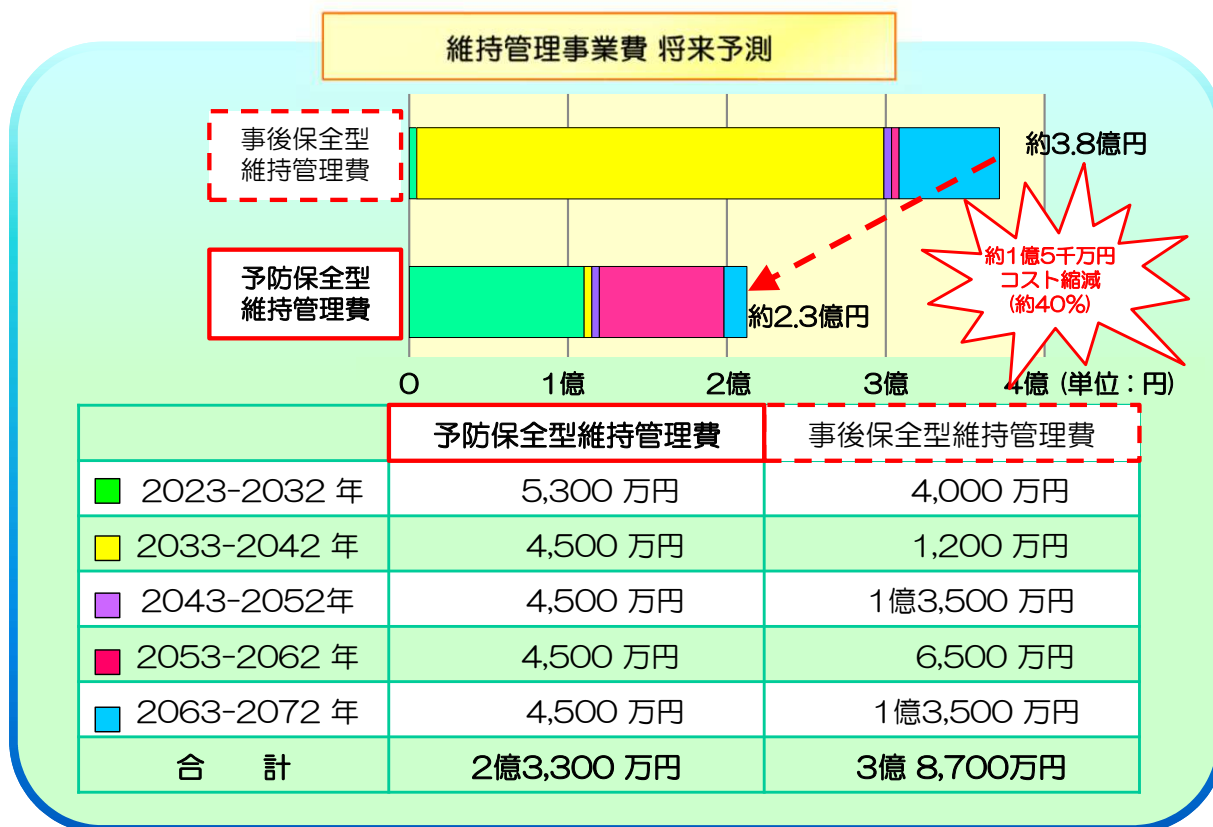
2) 「短期的な数値目標」と「そのコスト縮減効果」

対象橋梁は、令和8年（今後5年間）までに撤去を実施することで、「定期点検1回分（約30万円；実績値）」と今後の「維持修繕費（断面修復と安全施設の新規設置費；約60万円（推定）」が縮減できるものとし、これをコスト縮減効果（数値目標）として検討している。

尚、対象橋梁の健全度は、上述した概要に示すとおり“II”であったが、通行の安全性確保の観点から、転落防止柵の新設と合わせて修繕工事を行うものと考えて、修繕目標値を設定した。

6. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

従来の事後保全型から予防保全型へ転換することにより、今後50年間で約45%のコスト削減が図れます。



7. 橋梁長寿命化対策工事の予定

19橋の今後10年間に実施する長寿命化対策工事の概要を示します。なお、工事の実施時期、工事内容は、日常点検や諸条件等により見直すことがあります。

橋梁長寿命化対策工事の予定

年度	修繕する橋名	橋梁長寿命化対策工事
2023年 ～2026年	町道2号-長沢	ひび割れ、断面修復 ほか
	町道3号-堂庭	ひび割れ、断面修復 ほか
	久保橋	ひび割れ、断面修復 ほか
2027年 ～2029年	町道1号-新宿	ひび割れ、断面修復 ほか
	町道2号-伏見	ひび割れ、断面修復 ほか
	町道27号-徳倉	ひび割れ、断面修復 ほか
2030年 ～2033年	町道1号-伏見	ひび割れ、断面修復 ほか
	柿田橋 (塗装)	塗装

8. 耐震対策方針

平成23年3月に発生した東日本大震災により、多くの橋梁が被災したことを踏まえ、近い将来発生が予想される東海地震等への対策として、橋梁の耐震対策を実施します。なお、落橋に対する安全性の確保を優先的に実施していきます。

9. おわりに

本計画策定のため「清水町橋梁長寿命化修繕計画検討委員会」を設置し、学識経験者の方から御意見等をいただきながら、検討を重ねてきました。今後は、点検結果・修繕履歴のデータを蓄積し、今回策定した長寿命化修繕計画の妥当性や修繕効果について評価・分析を行い、必要に応じて計画の検証・見直しを実施していく予定です。

1) 計画策定担当

清水町役場 建設課 tel：055-981-8229

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者（当初策定）

国立大学法人 豊橋技術科学大学 大学院 教授	山田 聖志
国土交通省中部地方整備局 沼津河川国道事務所 副所長	翠 昭博
静岡県沼津土木事務所 技監	古梶 隆宏

会議の様子



参考資料：用語の説明

番号	用語	内容
※1	コンクリート橋	主要部材にコンクリートを用いて建設された橋梁
※2	鋼橋	主要部材に鋼材を用いて建設された橋梁
※3	事後保全型	損傷が進行した後(健全度100点満点中20点の時点)に補修するため比較的大規模な対策を実施
※4	予防保全型	損傷が軽微なうち(健全度100点満点中60点の時点)に損傷の進行を防止するために、予防的に対策を実施
※5	健全度	橋梁の劣化損傷状態を100点満点で示す指標です。
※6	塗装の劣化	鋼材の表面に施した塗装が、水や紫外線、塩分などの影響で剥がれや割れなどが生じる状態。放置すると、鋼材が錆びやすくなり最悪の場合は、鋼材に穴が開くこともあります。
※7	鉄筋露出	鉄筋を保護している表面のコンクリートが剥がれ、鉄筋がむき出しになる状態。放置すると、水などの影響で鉄筋が錆びやすくなり最悪の場合は、鉄筋が破断することもあります。